

市議会と新基本構想・基本計画素案策定市民会議との意見交換会 会議録

日 時：平成 23 年 9 月 4 日（日）午後 1 時～午後 3 時 13 分

場 所：市役所本庁舎議会棟 4 階 全員協議会室

出席者：市民委員 12 名

【みんなで担う公共と協働分科会】岡崎理香、篠原勝久

【生活・共助分科会】新倉栄一郎、堤直樹

【教育・学習分科会】野牧宏治、八木正広

【まちづくり分科会】関谷真一、倉田貴文

【産業分科会】野崎良一、土肥健一

【環境分科会】加藤晋次郎、岡田静子

市議会議員 15 名

議長 水野淳（挨拶及び市民会議「中間のまとめ」の概要説明まで在席）

【自民党新政会】鈴木玲央、福安徹、伊藤裕司、伊藤祥広

【八王子市議会公明党】五間浩、荻田米蔵、小林信夫

【日本共産党八王子市議会議員団】鈴木勇次、山越拓児

【市民・民主クラブ】安藤修三、森英治

【みんなの党・無所属クラブ】大久保賢一

【諸派】鳴海有理、井上睦子

事務局：11 名（政策審議室 8 名、議会事務局 3 名）

【政策審議室】小島部長、伊藤次長、内田次長、設楽主幹、和智主幹、中山主査、  
羽生主任、石川主事

【議会事務局】中島局長、西村次長、中村主任

傍聴者：26 名

議事内容

開 会

【政策審議室】小島部長

- ・ 市民会議は、184 名の参加で今年 1 月 17 日に発足式を開催し、部長職による 3 日間の市政概要説明会を経た後、6 つの分科会に分かれて土日を中心に熱心に議論をしていただいている。
- ・ 大震災の経験により、従前とは別の視点による議論も展開されている。また、広く市民の意見を反映していくために、関連団体のヒアリングや、市民アンケートを行い、更に、広報 8 月 15 日号で「中間のまとめ」を公表し、市民意見を募っている。
- ・ 本日は、市民の代表である市議会議員の皆様から新たな視点によるご意見をいただき、素案の作成に活かしていく目的で意見交換会を開催させていただいた。実りある意見交

換会とするため、忌憚のないご意見をいただきたい。

### 議長挨拶

水野議長

- ・ 長期に亘り市民会議に参加されている皆さんに心から敬意を表し、感謝する。現行のゆめおりプランは、初めて市民会議方式により素案を策定し、議会に示された市の原案には、自分たちのまちの将来像は自分たちで描くという熱い思いがあふれており市議会全会派一致で可決した。
- ・ 基本構想・基本計画は、本市の市政運営の基本方針であり、市民活動のよりどころである。ぜひ、議論を尽くしていただき、本市にふさわしい素案を策定してほしい。素案決定前にこのような会を開催してくれたことに敬意を表す。八王子の将来デザインについて忌憚のない闊達な議論となる意義深いものにしていきたい。よろしくお願いします。

### 市民会議リーダー代表挨拶

【教育・学習分科会】野牧リーダー

- ・ 市議会議員の皆様、お忙しい中ご出席いただきありがとうございます。本日は「中間のまとめ」を説明し、ご意見をいただける貴重な場を設けていただき、厚く御礼申し上げます。
- ・ 1月の発足式で、市長から重要な視点としてキーワードをいただいた。その一つに「市民協働のあり方」があった。市民会議において、市民協働について考える前に、184名の市民委員が市民協働で会議を進めていくことがまず大切であると考えた。実際の検討段階では、一人ひとりが意見を出しやすいようにワールドカフェ方式で話しやすい環境づくりを手がけた分科会、問題の分類整理に適したKJ法を利用した分科会など、さまざまな工夫を凝らしてきている。また、市民委員同士の連携を深めるために、懇親会なども行っている。
- ・ しかし、検討のプロセスで影響が大きかったことは、こうした会議の進め方ではなく、かつて経験したことがなかったほどの大震災である。この大震災の経験を市政に活かせるように私たちは考えていかなければならない。こうした思いの委員は大勢いる。この時期に私たち市民委員が素案の策定に携われることは大変意義深いことである。
- ・ 本日晒す「中間のまとめ」は、これで十分な内容だとは考えていない。ぜひ、市民の代表として、より広く市民の意見を聴いていらっしゃる市議会議員の皆様にご意見をいただき、忌憚のないご意見をいただきたい。

### 説明

【みんなで担う公共と協働分科会】岡崎リーダー

- ・ 1月の発足式以降、原則月2回のペースで会議を開催し、議論を重ねてきている。今回

お示ししている「中間のまとめ」以外に、「提言シート」を私たちの分科会では14枚まとめているが、今回は提言シートについてご説明する時間はない。その点はご了承ください。本日は私たちの分科会がどのようなことを中心に議論しているかについて説明させていただきたい。

- ・ 主な検討の分野は、協働と分権、行財政改革である。また、議会との協働にも触れたいと思うのでよろしくお願いしたい。このように、検討の分野は総論的な分野であり、全体的な価値観や理念にも度々議論は及んでいる。
- ・ 「中間のまとめ」の文頭にあるように「幸福度ナンバーワンのまち八王子をめざして」と「みんなが担い手『新しい公共』」をキーワードに議論を展開している。
- ・ 「新しい公共」は、民主党で特命担当を設置するほど重要視され、ここ数年注目されてきている。しかし、ここ数年の話ではなく、さかのぼれば、自民党中曽根政権、橋本政権の行財政改革、特に注目されたのは、小泉政権が掲げる「官から民」や、NPO法が施行され、公共を担う「民」という言葉が流行したのは10年前。前回のゆめおりの素案を見てもこうした概念を意識していることが見て取れる。何をいまさらという感もあるが、一般の市民の方にとっては「新しい公共」とはそうなじみのある言葉ではないと考える。今回私たちが議論している内容は、一歩進めた内容であると考えている。すなわち、これまで、「新しい公共」は、厳しい財政状況の打開策としての視点から捉えられてきたように思われるが、私たちは市民側からのボトムアップの意識改革としての視点で検討している。分科会名にもその考えを込めている。
- ・ 行政に頼るのではなく、「市民、市民活動団体、企業、大学、市などが協力して公共を担う時代へ」ということがベースとなっている。しかしながら、市のアンケート結果などを見ると、まだまだ、市民がまちづくりの担い手として自ら担う意識が十分とはいえない。意識を醸成させていくしくみづくりを様々な角度から提言していきたい。
- ・ 次に、「幸福度ナンバーワンのまち」について。地域に住む市民として、人とひとの信頼の絆は安心感を生み幸福感をもたらす。人とひとのつながりから自分ができることはないか、それがエンパワーメントの醸成となり、それが強い市政づくりにつながっていくと考えている。
- ・ また、震災後、価値観は大きく変化しつつある。震災は、私たちに物質的豊かさだけでは幸福感を得られないことを教えてくれたように思う。健康、福祉、教育、住みやすさ、子育てなど様々な要素があるが、市民が地域の課題を発見して、担い手として自ら参加して解決していく意識と実行が生まれたときに八王子は「幸福度ナンバーワンのまち」に近づけるのではないかと考える。
- ・ 今回、「中間のまとめ」に対する市民意見で、「『幸福度』は具体性に欠けるのではないか」とのご意見をいただいた。確かにその難しさはあるが、市民が幸せになることが目的である。そのため、具体的な数値で表すのは困難だからという理由で避けるべきではないと考えている。どうしたら幸福度を上げられるか、具体的な手法や指標を考え、今

後検討していきたいと考えている。

【生活・共助分科会】新倉サブリーダー

- ・ 生活・共助分科会は、日常生活で誰もが目にして誰もが関わり、間口が広く、接しやすい分野である。現在 40 名で検討を進めている。ほとんどの委員が町内会、子ども会、医療・健康関係、障害者支援など現場活動に携わっている。そのため、自分の活動に思入れも強く、熱心に議論が展開されている。
- ・ 検討は、4 つのグループ、全員参加のコミュニティ、未来をつくる、暮らしやすさ、安全・健康に分かれて行っている。「中間のまとめ」の基となる提言シートは 48 枚もあり、現在、統合しながらシートをまとめているところである。
- ・ 全体のベースにあるのは、「漠然とした不安」であるとする。核家族化、未婚率、単身世帯の増加、高齢化、家族や地域のつながりの希薄化が生む不安。向こう三軒両隣という共助の精神の喪失。具体的には、出産、子育て、健康、老後、雇用、長時間労働、災害。障害者、外国人の方ならなおのこと不安がある。これらを取り上げたシートは作成されたが、具体的解決策については今後議論を深めていく段階。また、素案として市長に提出した後も市で議論を重ね、具体的に実りあるものにしてほしい。

【教育・学習分科会】野牧リーダー

- ・ 分科会人数は 37 名。男女ほぼ半数で、他の分科会と比べて女性が多い。休日の開催が多いため、逆になかなか参加できない委員もいるが、25 名程度は毎回集まって議論を重ねている。参加できない人のためにも、平日にフォローアップ分科会を 3 回開催し、なるべく皆が参加して議論を進めていけるよう工夫している。また、多岐に亘る教育分野で活動している人がメンバーとなっている。
- ・ 学校教育、生涯学習・スポーツ、芸術・文化活動の 3 つのグループに分けて検討している。共通している背景をはじめ、検討の概要について説明する。21 世紀に入り、10 年経つが、成長していた社会は縮減に向かっているが、物は豊かとなっていると言える。それに反比例して、人とのつながりは希薄化し、一家団らんがない、孤独、孤食、孤族、無縁社会と言われるように孤独が蔓延している。
- ・ 困りごとにあえぐ子ども、格差に悩む親、忙しさやストレスを抱える教師、それぞれ悩みながら、教育を受け、あるいは教育する、といった状況にある。こうしたことを市民一人ひとりが自覚を持って解決していくべきだと考える。まずは、大人がしっかり夢を持って学び、「学び」を地域の次世代育成に活かす、言わば「学び」の循環ができるといいと考える。
- ・ そのためには、働き盛りの世代の目を地域に向けられるよう「ワーク・ライフ・バランス」の観点を持って施策を展開できるといい。地域の子どもは地域で育てたい、地域に誇りを持っていきたいとの思いもある。

- ・ 「中間のまとめ」で、特に重点的で新しい視点は、1(2)「児童福祉と教育行政の連携強化」、(4)「親と育とう八王子」、2(2)「学び合いの機会の整備と拡大」、3(3)「都市間文化交流と相互支援」、(4)「市政100周年記念事業」である。(資料参照)

#### 【まちづくり分科会】関谷リーダー

- ・ 分科会人数は男性のみの23人。資料のとおり、自然と共生し、快適に、安心して暮らせるまちづくりを目指し検討を進めている。(資料の該当箇所を説明)
- ・ 防災、交通、街・環境の3つのグループに分かれて検討を進めている。ハードだけではなく、ソフト面でのまちづくりとして、市民力、地域力が大切と考える。
- ・ (「1.潤いのある環境都市」について、資料に基づき説明)。自転車の活用や楽しみながら散歩ができるまちづくりを考えている。八王子ならではの地形を活かせるまちづくりに焦点を当てて検討を進めている。「里の駅」「街の駅」「川の駅」などについては、既存の市民センターなどを活用してはどうかと考えている。
- ・ (「2.人にやさしい環境整備」について、資料に基づき説明)。自転車や歩道のネットワークの整備を進め、日常の中で子どもたちが安全に安心して遊ぶことができる環境づくり、また、川沿いから安全に楽しく山にもまちにも行けるそんなまちづくりを考えている。
- ・ (「3.安全・安心なまちづくり」について、資料に基づき説明)。地域のつながりの中でソフト面からいかに防災を考えていくか。まちづくり分科会だけでなく、他の分科会とも検討を進めている。この点は充実させていきたい。
- ・ また、歩いていける範囲で生活できるまちづくりを一つの基本としたいとも考えている。河川から1kmの範囲でほとんどの市街地に歩いていくことができる。既存施設を活用しながら、特に小学校の空き教室などを活用して徒歩圏のコミュニティづくりにつながるよう、「快適に過ごせ、住みたくなるまち、住み続けたいくなるまちはちおうじ」を考えていきたい。

#### 【産業分科会】野崎リーダー

- ・ 分科会人数は36名、4グループに分かれて検討を進めている。検討の最中、そごうデパートの撤退や、長崎屋の移転が報じられ、夢を描くことの現実的な難しさも感じている。産業分科会では、より具体的、実践的な視点から検討を進めている。かつて、織物が万の金を生むとの例えで言われたガチャマン商業の最盛からひも解き、八王子の産業の近隣への貢献や市の財政収入の一部である法人税収入という財源面の視点からも検討している。
- ・ NHKの番組で、八王子市の放射線通りがシャッター通りとして報道されたことは大変残念である。分科会の議論も及んでいるが、その現実的解決策がなかなか見出せないのが現状である。

- ・ 議論の主題は、八王子市民の消費と需要のバランス、また、都や市だけではなく、観光庁といった国の補助も獲得できる観光業の発展に力を入れてはどうかと考えている。
- ・ （資料１～４の内容を資料に基づき説明）
- ・ 八王子市は大学が多いことが特徴。卒業後に学生の雇用につながるしくみづくりは有益であると考えている。
- ・ 道の駅は市民からの人気が高く、売上げの高い施設となっているが、今後の展開においては、原発事故の影響を考え、衛生面からの安全確保に力を入れる必要もある。
- ・ 八王子の特性について議論を重ねているところであるが、なかなか答えが見出せていない。しかし、具体的に何を進めていくべきか積極的に議論を進めているところである。
- ・ 国際会議が開催できる場所についても、高尾山を中心とした観光に加えて宿泊施設があれば、実現可能になるのではないかと考える。また、270万人の高尾山の観光客を市街地へ足を伸ばす観光ルートとしてサイクリングロードの整備も一つの手段ではないかと考える。
- ・ 情報は、どの産業分野においても基礎となる。そのため、情報の基盤整備は大切だと考える。
- ・ 教育委員会が保管している国宝財産や市の財産を活用してはどうか。その他、「道の駅」と観光ルートのタイアップや路面電車の復活など、その他市と市民が分担しながら、新しい産業の創出ができないか検討を進めている。

【環境分科会】加藤リーダー

- ・ 分科会人数は18名、自然エネルギー、みどり・水、環境教育の3つのグループに分かれて検討を進めている。21世紀は「環境の世紀」とも言われ、環境分野は広い。まちづくり分科会や産業分科会でも環境に関する検討がされている。
- ・ 福島原発事故により、一極集中型の大量発電は、防災面からも課題があると考え。その観点から新たな視点であるが、エネルギーの地産地消を検討している。
- ・ みどりが豊かで水に恵まれていることは八王子らしさであると考え。こうした八王子の魅力を活かし、次世代に継承していくために、八王子を愛する郷土や文化の醸成が大切であると考え。
- ・ スマートシティという発想が市民から立ち上げた意見から出ているというのも八王子らしさだと考える。

【環境分科会】岡田サブリーダー

- ・ （資料に基づいて説明）

意見交換

【自民党新政会】鈴木議員

- ・ 生活・共助分科会の「2(2)家族で子どもを育てる喜びと共感を持てる社会環境」に

ついてであるが、家族と一緒に子育てすることは一番大切であるとする。しかし、現状を考えると、保育園の充実や待機児の解消が大きな課題となり、保育時間は延長化する傾向にある。保育施設での保育時間が長くなれば、子どもと一緒に居られる時間は短くなる。長期の預かりニーズがある中で、子育てに喜びが持てる工夫があれば教えてほしい。

- ・ 教育・学習分科会の「1(2)児童福祉と教育の連携強化」についてであるが、就学支援シートは、発達障害など学校に伝えておいた方がいいと幼稚園が考えることなどを記載するものとなっている。ここ2、3年、幼稚園協会が中心となって取り組んでいるが、情報があつたうえで検討しているのか。
- ・ 「1(4)親も育とう八王子」についてであるが、4年ほど前に、<sup>おやがく</sup>親学については話題となった。その後も現在も<sup>おやがく</sup>親学推進協会がある中で、こうした視点は大切だと考える。現状のデータを把握されていれば教えてほしい。

#### 【生活・共助分科会】新倉サブリーダー

- ・ 具体的に何をすれば解決するかという妙案は確かに難しい。しかし、働く時間が長すぎることも大きな問題だと捉えている。ワークライフバランスというように、家には寝るために帰るような生活の改善が必要ではないか。育児休暇を取得しやすい環境づくりや、男性が妻に育児を任せすぎるなど、育児に関わりがなさすぎはしないか。男性の意識改革も必要ではないか。しかし、これを提言シートに記載することは難しい。両親が働いていたら、保育園に入れざるを得ないのは、祖父母がそばにいないこともある。三世代同居の見直しも一つの方法であるとする。

#### 【教育・学習分科会】野牧リーダー

- ・ 就学支援シートの運用について検討したかは定かではない。発達障害は一つの事例である。他にも、ドメスティック・バイオレンスや小学校から中学校に上がる際に別の教育機関同士が引き継げるしくみが必要と考える。児童相談所やその他の教育機関との連携強化も必要だと考える。こうしたしくみがあれば、教育機関が変わっても一人ひとりの子どもに適した教育を行っていくことができると考えている。
- ・ <sup>おやがく</sup>親学の現状についてデータの裏づけはない。一つの枠組みとしてデータの捉えも必要だが、実感として課題の捉えも大切だと考える。市民委員の中には、学校支援コーディネーターとして活動されている人もいる。現場で携わる人から見て、数年前と比べて明らかに親が子どもを見る目が変わってきている。親としての自覚、自立が不足していることを課題視している。ご指摘のとおりデータの捉えも必要だと考える。今後の課題としたい。

【自民党新政会】鈴木議員

- ・ 0歳児から2歳児までは、できれば家庭で育てられるようにした方がいいと自分は考えている。分科会でも検討してほしい。また、就学支援シートについては、市でも幼稚園や保育園から小学校に上がるだけでなく、小学校から中学校に上がる際の就学支援についても検討しているところである。分科会でもぜひ検討を進めてほしい。

【八王子市議会公明党】五間議員

- ・ 基本構想・基本計画は、本市の政策推進の要ともいえる。障害児教育や少子高齢社会への取組み、防災など前回に比べて具体的な検討もされているように見受けられる。もし、検討の中で優先順位として示していくべきだとする視点があるのならば教えてほしい。

【政策審議室】和智主幹

- ・ 分科会の中でそれぞれの案を検討しており、分科会の中では優先度はあるかもしれないが、全体としての優先度については、原案、あるいは実施計画の中でお示ししていきたいと考える。

【八王子市議会公明党】五間議員

- ・ 大事なことは、市民の幸福をいかにつなげていくかということだと考える。これは要望だが、幸せを感じるかを把握するものが、施策の展開では満足度調査となると考える。新しい考え方としてGNH（国民総幸福量）がある。行政の側からGNHのような指標を表すことができるなら有効であると考えます。
- ・ 生活・共助分科会の「4（4）ボランティアポイント制度の拡充と近隣市との連携」について、近隣市との連携のイメージとは。

【生活・共助分科会】新倉サブリーダー

- ・ ボランティアポイント制度は、現在は高齢者関係のみだが、ボランティアはいろいろな場面である。子育て、地域での支え合いを促進するためにボランティアポイント制度を活かせれば心強いと考える。また、八王子に住んでいる人が八王子だけで生活をしているとは限らない。つまり、八王子だけの制度であると、効果を発揮しにくいのではないかと考えている。各市の制度の違いもあるので、難しい課題もあるが、南多摩ボランティア協議会など複数市にまたがって活動している団体などを活用し、近隣市も巻き込んで実施できればより効果的となると考える。

【市民・民主クラブ】安藤議員

- ・ みんなで担う公共と協働分科会、生活・共助分科会、教育・学習分科会も一環する課題として、地域活動への参加は実際、大きな課題である。今後も都市内分権のしくみにつ



いて検討してもらえればと思う。そこで、地域内委員会について具体的に教えてほしい。

- ・ 交通政策において、自転車の利活用は重要な視点であると考え。自転車利用の促進条例といった言葉も載せてもらえたらいいのではないかと考える。
- ・ リニア中央新幹線計画が橋本駅である。これをいかにして八王子に取り込んでいくか。この点も検討していただければと思う。
- ・ 基本計画の達成度が検証される仕組みも検討していただけるといい。

#### 【みんなで担う公共と協働分科会】岡崎リーダー

- ・ 八王子は面積が広く地域性は様々。地域によって、行政に対するニーズ、市民構成、意識もかなり違いがある。これは世論調査から把握できる。資料1(3)にあるように、市民自らが地域ニーズを発掘して、新しい公共を担うために、自ら汗をかいて解決するしくみがあってもいいのではないかと考える。こうしたしくみをつくることで、市民意識の醸成も図っていくことができるのではないかと考えている。地域内分権を視野に、町内会だけではなく、PTA、各種市民団体、大学、学生などで構成する地域内委員会を提言し、今後検討を深めていく。
- ・ また、そのためには、地域住民同士が知り合いになっていくことが必要となる。気軽に立ち寄り、つながりをつくるきっかけの場として、コミュニティ・カフェなどの開設について、自治会館の活用なども有効かと考える。また、双方向の情報のしくみについても提案しているところである。

#### 【生活・共助分科会】新倉サブリーダー

- ・ 地域活動に参加する人が少ないことは確かに課題である。特に現役世代の参加が少ない。仕事は大きなその要因だが、夜間や休日など全く時間がない訳ではない。しかし、PTA、町内会に参加すればどんどん時間は取られてしまう。例えば、週に2時間だけの参加も可能といったちょっと参加ができるしくみがあれば参加もしやすくなる。担い手が高齢化しており、担い手の不足は目に見えている。現役世代を取り込む現実的な工夫が必要であると考えている。

#### 【教育・学習分科会】八木サブリーダー

- ・ 基本計画の達成度の「検証」とは、どういう意味か。

#### 【市民・民主クラブ】安藤議員

- ・ 検証するのは議員や行政の仕事なので、検証のスキームを提案してもらえるといい。

#### 【自民党新政会】福安議員

- ・ 自然がこれだけ身近な八王子に住んでいながら、蛙やフナを採ったことがない子どもが

大勢いるのが現状である。できれば、問題が多い学校に足を運んで、現場を見てほしい。

- ・ 市では雨水浸透枡の設置に力を入れている。市民意識が高まるよう、市民委員の皆さんから市民への働きかけをしていただければと思う。
- ・ 八王子には、1万9千社の会社がある。8割～9割は中小零細企業である。こうした企業での働きやすい政策を考えてほしい。行政がどんなリーダーシップを取っていけば、八王子の企業が元気になっていくのか市民の皆さんの声を代弁していただければと思う。

【日本共産党八王子市議会議員団】鈴木議員

- ・ 大震災を経て価値観は大きく変わった。かつては、勝ち組、負け組みなどあらゆるところで勝ち組に残らなければと言われていた時代もあったが、現在は、人は一人では生きていけないと考える人も増えている。自分探しのためにボランティア活動に参加する若者もいる。協働という言葉を使い始めて久しいが、行政と市民をどうつないでいくのか。もっと議論してもいいのではないか。
- ・ 行政に頼るべきところは頼り、こうした協働を進めていくために市民が行政を動かすことも大切。行政は、市民意見をまとめ上げて政策につなげていくのが行政の役割といえる。
- ・ 「幸福度ナンバーワン」について、8月に内閣府でも幸福度指標についての発表をしたが、大きな課題を感じている。つまり、市民の幸福度を上げるための行政の視点が全くない。平成22年度には、八王子で140人の人が自殺している。福祉の予算割合は都内でも大変低い。こうした現実をどう評価し、どの水準にあつてどこまで引き上げたら市民の幸福が前進していくのか。こうした具体的な視点で考える必要があるのではないか。「幸福度ナンバーワン」と言われても認識が異なってしまうのではないだろうか。

【八王子市議会公明党】荻田議員

- ・ 現在、高齢者施策を所掌している部署は市役所では7～8ある。例えば、東京都には高齢社会対策部がある。総括的にまとめて強力に高齢施策を推進していける体制の必要性を感じている。高齢社会に総合的に取り組める体制が必要ではないか。また、3～4年もすると4人に1人は65歳となる。これからの10年は、今後、生産年齢層の減少が50～60年続く最初の時期の計画となる。戦後の復興と今回の震災の復興の大きな違いは、生産年齢人口の多さが異なる点であるため、高齢者を標準と捉えた、高齢社会を中核とした計画が時代を先取りした計画となるのではないだろうか。

【生活・共助分科会】新倉サブリーダー

- ・ 高齢者の増加は大きな課題である。提言を考えていく上で、八王子の今後の年齢、世帯構成の平均的な姿を考えて計画を立てることは必要である。高齢者問題ではなく、市民

の問題。市民が歳を取り、単独世帯化しているということ。一般的な八王子市民としてのイメージと現実が乖離してきていることが問題である。八王子の市民が安全で、豊かで、幸福な暮らしができるように。その八王子市民が高齢者であるということ。高齢者問題として捉えるのではなく、八王子市民一人ひとりが楽しく、幸せに暮らせるための対策を考えていく。ただし、市民はこうした人が多いということを含んで考えていくことが必要ではないか。

#### 【諸派】鳴海議員

- ・ みんなで担う公共と協働分科会の「1(5)地域に根ざして行動できる職員」について、地域内委員会と職員のつながりは。
- ・ 生活・共助分科会の「2(4)家庭でも社会でも子ども自身が安心できる環境」について、一般的には子育てする側の安心が中心になりがちだが、子どもに焦点が当てられている。私も同様の考えである。
- ・ 「3(1)職場でも地域でも、生きがいをもって、生涯働くことができ、自分らしく活躍できる環境」について、障害の有無に関わらないという点を強調してほしい。
- ・ 「4(4)ボランティアポイント制度の拡充と近隣市との連携」について、多摩市では、学生に対するボランティア手帳の制度がある。八王子は学生が多い。こうした制度や学生との連携について検討してもらえたらいいと考える。
- ・ 環境分科会については、最初に自然エネルギーの提言をされている点に共感できる。
- ・ 3(3)で3Rについて書かれているが、リサイクルはコストがかかる。できれば、リデュース、リユースを強調してほしい。

#### 【みんなで担う公共と協働分科会】岡崎リーダー

- ・ 現在、地域に根ざして行動できる職員がいないということではない。市には若手の優秀な職員も多く感心しているところ。共に担い手となっていくためには、市民、行政をつなぐ人が必要である。なお、「1(4)地域で活動する団体同士を『つなぐ』コーディネーターを幅広い人材から育成する」については、市民同士、団体同士を念頭に置いている。今よりももっと増やしていくという意味である。

#### 【自民党新政会】伊藤裕司議員

- ・ 家庭の教育力を高めるというテーマに取り組んでいただき、心強く思っている。私も同様の考えである。
- ・ 素案策定にあたり事前に実施した市民アンケートにも由々しき結果がある。親、教師を尊敬しているかとの質問に対して、尊敬していないと半分近くの人が回答している。これからも、家庭の教育力をいろいろな角度から取り上げて検討していただけるとありがたい。

【市民・民主クラブ】森議員

- ・ 6つの今までの都市像について、次の10年を考えると、特に環境分野は取り組まなければいけないテーマだと思っている。
- ・ みんなで担う公共と協働分科会の2(1)の「ブランド都市」のイメージがあれば教えてほしい。

【みんなで担う公共と協働分科会】岡崎リーダー

- ・ 「ブランド都市」のイメージについてだが、具体的には検討中であり、何か一つというものではない。私たちの分科会は、行財政改革も検討の分野となっている。その中で、財源創出の手段として掲げている段階、他市から若い世代が移住し、流出しない「ブランド都市」として売り出せる戦略も市税の確保策として有効ではないかと考えている。

【自民党新政会】伊藤祥広議員

- ・ 市民参加は現実、なかなか難しい面もある。ゆめおりプランは本市のまちづくりの憲法であると言っているのので、皆さんがこれからも地元や職場の声なき声を拾ってほしい。
- ・ 自助、共助、公助は大切。その中で、各種団体も大切であると思うが、町会・自治会は基本と考える。古い町会も頑張っている活動しているので、大事にさせていただいてパワーアップできるようぜひ検討してほしい。

【八王子市議会公明党】小林信夫議員

- ・ 幸福度のテーマはいいが、個々人が実感する尺度が違うものであるのので、中身についてこのように具体的に設定するのはふさわしくないのではないかと考える。
- ・ 前回は話題としたが、議会と市民の関係と、行政と議会の関係は異なる。議会と市民の関係について協働の視点からでもよいがまちづくりを共にしていくという観点からなんらかの検討をしていただければと思う。
- ・ 自転車施策についての方向性はよいと思うが、道路、インフラの問題がある。深刻な交通事故の問題がある。交通事故の危険をどう除去していくかの施策提言も同時にしていただければと考える。

【諸派】井上議員

- ・ 大震災を経て、自然エネルギーへの転換について、環境分科会でも産業でも取り上げられている。このように、共通項目は、新しい基本構想・基本計画での重点項目になるのではないかと議論を高めていってほしい。
- ・ 再生可能エネルギー産業は、八王子の大きなブランドになる可能性もある。議論の発展を期待する。
- ・ 総括的なまとめとより具体的なまとめが混在している。具体的な点では次のような懸念

がある。みんなで担う公共と協働分科会の「2(2)施設利用料などの受益者負担のあり方の再検討により財源を発見する」では、施設使用料の値上げと市民活動の活性化の関係がある。また、所得の低下による貧困の拡大と福祉、教育分野における兼ね合いもある。受益者負担のあり方については慎重に議論を進めてほしい。また、まちづくり分科会の「3(3)の防犯カメラの設置促進」では、人権上の問題もある。多様な意見、視点で議論を深めてほしい。

【みんなの党・無所属クラブ】大久保議員

- ・ 各分科会においても分科会の中でもクロスオーバーする内容があってもいいと思う。見方やテーマが違うのだから萎縮せずにどんどん議論を進めて、最後にまとめてもらえばいいのではないかなと思う。
- ・ 自転車について、結節点というか、ライド&ウォーク、ライド&サイクル、また駐輪場について検討してほしい。
- ・ 日本の森林率は先進国の中では、世界第2位である。1位はフィンランド、3位はスウェーデン。北欧諸国では、全エネルギーの20%を木質バイオマスでまかなっている。森林率が高い八王子はぜひ地産地消を積極的に考えてほしい。

【日本共産党八王子市議会議員団】山越議員

- ・ 孤族や無縁社会という現代の問題を意識して議論されていることがわかった。社会保障や福祉など国の法律制定など八王子だけでは解決できない大きな問題もある。しかし、市や市民としてできることを超えた提言も必要であれば大きなテーマについてもぜひ言及してほしい。
- ・ 平和は、地域の安全や人権尊重の上でも大切なテーマであると考えている。戦争体験の継承など全国の都市が行っている具体的な取り組みを参考に検討してほしい。

【みんなで担う公共と協働分科会】岡崎リーダー

- ・ 先ほど、公明党の小林信夫議員から、議会との協働についても検討してほしいとの話があったが、議会との協働についての提言も現在検討しており、今後、精査していくつもりである、

**議員代表挨拶**

【八王子市議会公明党】荻田議員

- ・ 充実した意見交換ができたことを心からお礼申し上げます。また、長期に亘って素案策定に熱意を持って取り組まれている皆さんに心から敬意と感謝を申し上げます。また、多くの市民の意見を反映するという事で私たちが意見を申し上げた。参考にしてほしい。12月に市長に素案を提出される予定とのことであるが、その後、基本構想・基本計画の

原案として議会に上程される。審議させていただく際には、皆さんの熱意を忘れずに皆さんのお考えが構想の中で実現できるよう頑張りますのでよろしくお願いします。本日は大変ありがとうございました。

閉 会